

■戌亥天中殺の人との人間関係

辰巳天中殺にとって戌亥天中殺というのは、運氣をもう一つ、伸びにくくさせる「足かせ」みたいな存在と言って良いと思います。

伸びよう、発展しようとする運を止める働きをするわけです。しかし、戌亥天中殺の星の働きはそう激しいものではないので、それほど強い "足かせ" になっているわけではありません。

足かせになったり、運を止めるのでは困った相手じゃないか……、と思われるでしょうが、そのように見えても、いちがいに悪い相性……と決め込むのは間違った考え方ではないでしょうか。

その力やエネルギーを上手に活かして、それによって自分も相手も活かすことが出来なくては、天中殺を知ることの極意とは言えないのです。「この天中殺とは相性が悪い、だから付き合わない」では、まるで幼稚園の子供並みの知恵としか言えません。

そういう意味で戌亥天中殺を考えてみますと、「中央」すなわち地上(現実)の欠けと、天上(精神)の欠落した結びつきになるわけですから、ちょうど良いバランス傾向と言えるのです。

それは、発展しようとする運だけでなく、困った事、不幸なとき、運勢が落ち込んでいる……といった不運も止めてくれる働きが生れるからなのであります。

「困ったなあ、どうしよう」というときに、戌亥天中殺の友人でも同僚でも、先生(目上)でも誰でも良い、助けを求めに行きますと、それこそいろいろな面で応援をしてくれたり、励まして呉れたりするわけです。ただし、その助け方というのは、非常に精神的なものになるのが戌亥天中殺の特徴です。相談に乗ったり、励ましたり、アドバイスはしてくれるけれど、現実にお金を貸したり、投資してくれたりという助け方ではないのです。心の助け、心の助け、心の支えといった感じになるのです。

たとえば、学生が受験に失敗して落胆しているようなときには、戌亥天中殺の友人や先輩のところへ行くのが最高なのです。現実「おれだって浪人したよ」……と励ましてくれるのは勿論のこと、戌亥天中殺の働きが辰巳天中殺の落ち込んだ運を止めてくれるので元気になれるのです。

普通に見れば、困ったような相性でも、使い次第では、相手も活かし、自分も生きるわけです。これが、天中殺の極意と言っていいでしょう。

仕事上の日常的な相手としては上司、部下、同僚……どこでもあまりうまくいかない相性なのは仕方ありませんけれど、学校の先生が戌亥天中殺では、辰巳天中殺は伸びようにも伸びません。

ただし、結婚となると、知り合ってから、恋愛、結婚までの時間が非常に長い関係になりまして、充分理解し合えるだけの長い "助走"があれば、逆に "強いきずな"で結ばれる相手になります。(出会って、即、深い関係あるいは結婚……では、破れやすいカップルというわけです。映画「伊豆の踊り子」の共演で初めて知り合ってから、長い年月、秘かに愛を育てて結婚に入った、歌手の山口百恵さん〔辰巳〕と俳優の三浦友和さん〔戌亥〕のお二人が、この天中殺の相性です。皆さんもよくご存知のように、子供とともにいる家庭の幸を選んで、献身的に尽くしている百恵夫人の幸な姿は、この天中殺同士の結婚の成功を物語っていると良いでしょう。)